

花壇づくりワークショップ ニュースレター

Vol. **02**
平成 29 年 9 月 22 日号

日 時：平成 29 年 9 月 22 日
10：00～13：50
場 所：馬見丘陵公園
花サポーター花壇
参加者：19 人

10：00～10：15 全体説明
10：15～11：15 花壇観察、低木類剪定、既存苗の撤去
11：15～12：15 苗の配置、植え付け
12：15～13：00 休憩
13：00～13：50 土壌改良の説明



フラワーフェスタに向けた花壇施工

フラワーフェスタ 2017 に出展する花壇に花の植え付けを行いました。今年度の参加人数は少ないですが、皆さんで協力して作業をすることが出来ました。

花サポーター花壇には、昨年度までに植えた低木類や宿根草、今年の初夏に植えた 1・2 年草などが既に沢山あるので、できるだけこれらを活かしつつ、以下の 3 つを方針として施工を行いました。

- ① 茂りすぎた植物を整理する
→ 背景植物、ラベンダーセージ、ツル植物等の剪定/枯れた植物、密度の高い植物の撤去・間引き
- ② 手前から奥へ高くなるボーダーの構成を整える
→ 中列に背の高い植物を増やす
- ③ 秋らしさ、リニューアル感をプラスする
→ コンテナ再配置/深みのある色合い・秋らしい植物を増やす

途中から雨の中の作業になってしまいましたが、ほとんど既存苗を抜くことなく、茂りすぎた宿根草を地際で切ったり、前面のラインを揃える等してボリュームを調整し、秋の苗を追加して花壇全体をリニューアルしました。

また、今回の植物の名前プレートには「みんなの趣味の園芸」(NHK出版)のご協力で、同サイトの「植物図鑑」へアクセスできる QR コードを表示しています。(右図) 同サイトには、その植物の名前だけでなく、特徴や育て方のポイント等も掲載されているので、ぜひご利用ください。

Parthenocissus henryana

ヘンリーツタ

ブドウ科/ツタ属



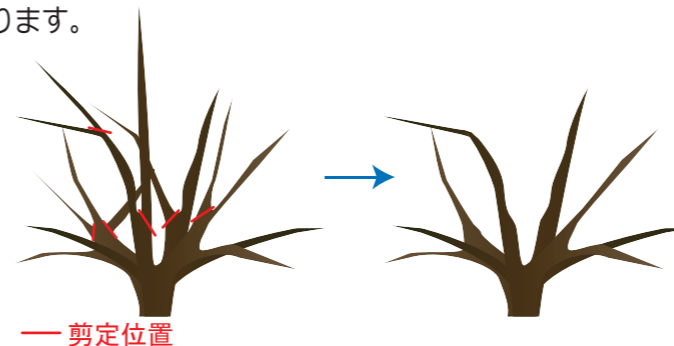
みんなの趣味の園芸
植物図鑑



低木の剪定方法

ボーダー花壇の後方の幅 50 cm の部分には、シルバープリペット、マホニアコンフーサ、ニューサイランが植えられています。マホニアコンフーサはこれから花が付き、ニューサイランは背が低いため、今回はシルバープリペットの剪定を行いました。

樹木の剪定は草花の摘心と同じ考え方です。切る位置は、枝の分かれ目の根元部分です。高さを調節する場合、適当に上部を切るのではなく、枝の分かれ目で切るようにしましょう。また、樹木は外に向かって枝を伸ばすので、密度を調節する場合、内側に向かって伸びる枝、徒長枝(上に向かって勢い良く伸びる枝)等も切り、風通しを良くしてやります。



— 剪定位置



土壌改良演習

市販の培養土を使うのは便利ですが、基本用土と土壌改良材から用土を作る場合はどうすればよいのか、標準的な配合の方法の演習を行いました。(詳しくは裏面「用土を配合してみよう！」参照) 触ってみると案外軽かったり、普段使っている培養土と比べて色合いが違ったりなど、混ぜている成分の特徴がよく分かったと思います。市販の培養土を購入する際は、表示ラベルの 1 番はじめに書いてある用土の割合が 1 番多いです。色合いやにおい、重さと併せて、表示ラベルもチェックしましょう。





用土を配合してみよう！

用土は数種類を配合して作ります。何を植えるかによってブレンドの割合は変わってきますが、植物に適した基本用土を選び、それを補う土壌改良土を混ぜるという方法は共通です。

今回は標準的な配合例として、混ぜる用土、土壌改良材の分量を全て同じにしています。実際にご自身で配合する際は、この土をベースとして、植える植物や庭土の状態を見て、足りない要素を足していきましょう。

◆用意するもの◆

- ・トロ箱 (なければ大きめのタライなど)
- ・赤玉土
- ・バケツ
- ・腐葉土
- ・クワ/スコップ
- ・ピートモス
- ・バーク堆肥
- ・パーライト
- ・パーミキュライト
- ・緩効性肥料



1 用意した用土と土壌改良材をバケツを使って同量ずつ量ります。(例えばバケツ 1 杯ずつ、バケツ 1/2 杯ずつ等)

2 同量ずつ量った用土と土壌改良材をトロ箱に入れ、その全体量に適した量の緩効性肥料を入れます。



3 クワやスコップを使って、全ての用土を土壌改良材が均一になるように混ぜ合わせます。トロ箱の端などは特に混ぜ残しがあるので注意します。

4 均一に混ぜ合わさったら出来上がりです。これをベースに、排水性を高めたい場合はパーライトを足す、保肥性を高めたい場合は腐葉土を足す等して調整します。



質問コーナー

Q. 花壇に植えた苗の下葉だけが黄色くなってしまふのはなんで？

苗の下葉だけが黄色くなってしまふのには、いくつか原因が考えられます。

①肥料の与えすぎ

肥料を与えすぎたりすると、栄養過多になり葉が枯れていくことがあります。

②土壌の酸度調整があつていない

大抵の植物は弱酸性の土壌を好みますが、中性や弱アルカリ性の土壌を好む植物を酸度調整せずに植えてしまうと、葉が黄色くなったり枯れたりします。

③葉の寿命

葉の生育が終わって黄色くなっていくことがあります。

④水の与えすぎ

植物によっては水を与え過ぎが生育環境と合わない場合があります。また、灌水の跳ね返りで葉の裏面の気孔が塞がってしまうことで、葉が黄色くなる場合もあります。灌水の勢いを弱めたり、マルチングなどで跳ね返りを防ぎましょう。

マルチングには、水の跳ね返り防止のほかに、土の乾燥防止、土の保温、雑草防止、病害虫の防止、降雨による土の固化防止、用土の流出防止などの効果があります。

Q. 「種蒔き用の土」と「ポット用の土」の違いは？

種蒔き用の土には肥料分が含まれていない、もしくは大変微量にしか肥料分が含まれていません。また、無菌に近い状態で、非常に清潔に出来ています。本葉が出てきてポットあげする際に使う土は、市販の一般的な培養土で構いません。「ポット用の土」という製品も売られていますが、「種蒔き用の土」と「ポット用の土」の違いは 肥料が含まれているかないか です。

また、ポットあげする際のコツとして、3日ほど前に2000倍に希釈した液肥を与えてからポットあげすると根が締まるので、興味があればやってみてください。

Q. 雑草を全く生えさせないようにする土壌改良の方法はある？

雑草は、土の中に種が混ざっていたり、風に乗って種が飛んできたりして、必ず生えてきます。雑草だけを生えさせなくする方法はありません。

農業分野では、水田で発芽抑制剤(土壌処理剤)がよく使われ、田植えした稲の苗を枯らさずに後から生えてくる雑草を抑えるようにしています。しかし、1つの農作物を広範囲に植える農業と、多種類の植物を同区画の花壇に植える園芸とでは状況も違いますし、植物によっては薬害がある可能性もあります。

面倒くさいですが、日頃から花壇をよく観察し、雑草を見つけたらこまめに抜くのが1番簡単で確実な方法でしょう。